

Global Studies P6 Term 1

Conflict and Peace Building 紛争と平和構築

グローバルクラス育てたい児童像

1. グローバル社会で通用する、英語コミュニケーション能力を身につける。
2. 分析力やプレゼンテーション力、調査力、課題解決力などの 21 世紀に必要なグローバルスキルを培う。
3. 日本人としての意識を持ちながら、グローバル市民としての主体性を育む。

6 Goals – Learner Profile

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. communicators コミュニケーションできる人 | 4. thinkers 考える人 |
| 2. open-minded 広い心を持った人 | 5. risk-takers 挑戦する人 |
| 3. inquires 探究する人 | 6. reflective 振り返る人 |
-

研究にあたっての目指す児童像

「多角的に考えることができる子」

単元を通して学ぶことによって、ある事象に対して多角的に考えることができる

またそれを自分で認知することができる

目指す児童像のための手立て

- 自分自身の振り返り
- 他者との振り返り
- 資料の活用
- 思考ツールなどの活用による思考の可視化
- ルーブリックを利用した目指す姿の共有

Aims of the Unit ユニットの目的

- 紛争が起こる原因にはさまざまなものがあることを理解する。
- 紛争や平和が自分たちの生活とどのようにつながっているかを見出す。
- 平和構築のために私たちがどのように貢献できるかを考える。
- リサーチ力、課題解決力、プレゼンテーション力を養う。

Ultimate Questions 最終課題

人びとの生活に多大な影響を与える紛争は、なぜなくなるのか？

私たちが平和で持続可能な社会をつくるためにできることは何か？

Summative Assessment 総括的評価課題

歴史上の紛争調査

対象の紛争が起こった①背景、②原因、③結果、④その後の影響について分析している。また、それらを整理した表を作成することができる。

コミュニティの紛争構造分析

コミュニティでの紛争について、さまざまなステークホルダー(紛争の利害にかかわる人)や彼らの多様な見方を表現できる。

紛争解決の方法とその2面性

クラスやコミュニティで起こる紛争の解決方法を複数提示し、とそれぞれの2面性を指摘できる。

Mid-term / Final Learning Map ・ Essay

学習したことや、考えの変化を作文や図、口頭で表現することができる。

Key Learner Profiles 主要学習者像

reflective 振り返る人 / communicator コミュニケーションできる人 / thinker 考える人

Key Concepts 主要概念

causation 因果関係 responsibility 責任 perspective 見方 reflective 振り返り

Line of Inquiry 探究の流れ

- 紛争とは何か？
- 身近なところにある紛争
- 紛争と発展
- 紛争の背景・原因や結果・影響
- 自分と紛争とのかかわり
- 紛争解決の方法
- 平和構築についての私たちの責任

Teacher's Provocations 主要な問い

- 紛争はどこで起こるか？(perspective)
- 紛争とは武力を用いるもの、国／地域 VS 国／地域の構図だけか？(perspective)

- 紛争はコミュニティーや社会を発展させるのか？(perspective)
- 紛争がどのようなものか、私たちはどう知ることができるのか？(reflective)
- 紛争のステークホルダーはだれか？(perspective)
- 私たちは紛争の要因になりうるか？(connection / reflective)
- 紛争は避けられないのか？(perspective)
- 紛争解決や平和構築について、私たちに責任はあるのか？(responsibility)

校外学習・特別活動

世界一大きな授業—紛争と教育／歴史博物館見学／海防博物館見学／沖縄修学旅行／
UNICEF ワークショップ—紛争と子ども

ユニットの意義

児童は紛争についてテレビニュースで知るだけのもの、海外のどこか遠くで起こっているもの、と認識しやすい。しかし、紛争は国や地域同士で起こるものだけではなく、家庭内やクラス内でもたびたび生じるものである。さらに、グローバル化によりモノの行き来も非常に活発な中、より安い資源を求めて遠く離れた地域の資源を使い、それが紛争の火種になっていることもある。つまり自分と一見無関係に見えても、実際は紛争に関わっている場合もある。

このユニットを通して、子どもたちは紛争が自分とはかけ離れたところで起きているわけではなく、身近にもある、また無意識に自分が紛争に関わっているということを認識することができる。また、紛争解決の方法としてコミュニケーション力(相手の考えをくみ取ること)や協働への態度・スキルを養う期待もできることから、本ユニットは有意義と考える。

本科目は社会科から時数を 1 時間抽出している。ゆえに社会科単元との結びつきを強くもち、両科目の目的を限られた時間内で達成することも求められる。このユニットは社会科での歴史の内容と大きく関わる場所であり、横断性が求められる。また、紛争解決の手段として国際協力や援助、協議、法の制定、権利の尊重などがあるが、これらも社会科後期の学習内容とつながりをもたせることができる。

児童について

多くの児童は本科目の活動に積極的である。調査をはじめとする課題探究には自立して取り組むことができるようになってきた。しかし、自己満足してしまうこともあり、調査やレポートが要求されたレベルに本当に届いているか、自分の学習過程がよかったか、さらによくできないか等の自己評価能力の養成が必要である。

議論好きな児童が多いが、自己主張が強いため、マナーや定型句を使用した意見表明の仕方等を繰り返し積み上げることが望まれる。IB の Key concept(form, function…など)については徐々に理解が根付いてきた。プレゼンテーションに関しては、苦手意識なく行うことができる児童が多いものの、英語を大勢の前で話すことに対しては、未だに慣れていない児童もいる。

「紛争と平和構築」という主題に関しては、興味関心が高い。しかし、思い浮かべるのは、アフリカや中東などで起きている紛争や、武器を要する紛争であり、それが自分の生活とどのように関係しているのかについては当事者意識があまりないようである。そもそも、紛争とは国(地域)対ほかの国(地域)という考えが先行していてもいる。

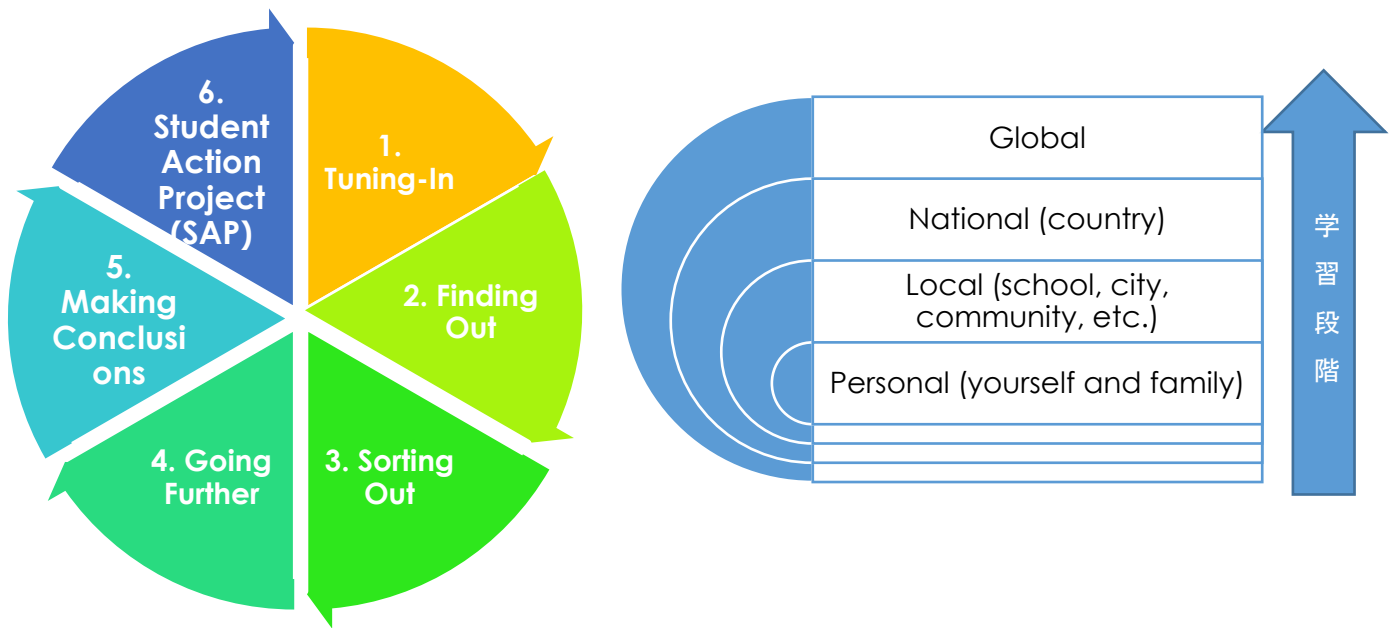
指導観

「紛争と平和構築」という一見実生活からかけ離れたテーマであるが、紛争が武力を伴う2国(地域)間同士の対立現象のみをさすわけではないということからスタートしたい。そこで、クラスやコミュニティーでの紛争に気付かせる活動を取り入れるようにしていく。紛争解決のためには紛争の構図を理解することが不可欠である。したがって、紛争の原因と結果、その後への影響について分析させるようにする。ただし、紛争を解決させることが大切であるため、ケーススタディーを取り入れながら、当事者意識をもって児童が考えられるように学習活動を組む。

効果的な議論をすることが大きな課題であるため、議論の機会を日本語・英語ともに多く設定する。定型句を繰り返し使用させることで定着を目指す。自立した探究活動が自己満足に終わらないように、適宜児童の考えに否定的な見方を提示したり、調査が深まっていないところを指摘したりし、さらなる探究意欲をもたせるようにする。プレゼンテーションについては英語で行う機会を以前にも増して設け、指導していくようにする。

調査やプレゼンテーション等の成果物においては、ルーブリックやチェックリストによる自己評価や他者評価を続け、評価能力の向上を目指す。

探究サイクル（6 stages）と学びの広がりの原則



Lesson Plan Overview（全 35 時間 M: month, S: stage と授業時間数）

M	S	GS	社会科	他教科
4	(4) Sa	GC Crisis—6 goals を本当に理解しているか？行動に移しているか？ 先生になる—6 goals(6つの学習者像 learners profile) を後輩に教える(全 GC 合同) ワークシートの添削	上巻: 私たちは歴史をなぜ学ぶのか？ 歴史上どのような紛争があったか？	国語 学級討論会をしよう
5	T3	(perspective) 紛争とは何か？紛争と聞いて思いつくキーワード [image map, KWL,	古代日本に紛争はなかったか？	English

		Y chart] 香港に紛争はあるか？クラスに紛争はあるか？ [onion chart] 紛争は武力紛争 armed conflict、世界に起こるものだけか？ 紛争はコミュニティーや社会を発展させるのか？	たのか？—縄文弥生古墳時代 聖徳太子はなぜお札になったのか？—平和を重ん	Learning for life
	F5	(causation / reflective) 紛争はなぜ起こるのか どうやってそれを知るのか？ Case study—日本の歴史上、どのような紛争が起こったか？ Background、Cause、Effect、Influence ルーブリック作成 歴史上の紛争リサーチ [research rubric]	じる考え 紛争分析—大化の改新 統治と法・税・仏教 …… ※紛争については、児童	Art 道徳 おり紙大使(新しい道徳⑤) 白旗の少女
	F4	(perspective / responsibility) 世界一大きな授業 - 紛争と教育 過去2年間と取組の復習 紛争は教育にどのような影響を与えるか？ 教育とお金—教育予算と軍事費、ゲーム市場マネー比較 ちがいのちがい—あっていい／ならないちがいは？—自分の選択か人権侵害か？ 首相への手紙	の「歴史上の紛争リサーチ」を活用 下巻： わたしたちの願いを実現	エンザロ村のかまど 田中正造 義足の聖火ランナー 東京大空襲の中で
6	So4	(causation / reflective) 歴史上の紛争リサーチプレゼンテーション 紛争が起きた原因・結果・影響の整理 [chart] これまでに何を学んだか？どのように学んだのか？ 紛争は今の自分に影響があるか？紛争は自分に関係があるか？	する政治 わたしたちのくらしと日本国憲法 世界の未来と日本の役割	
	G7	(perspective / reflective / responsibility) 自分はコミュニティーでの紛争の原因になりうるか？ [scale] コミュニティーでの紛争にかかわるステークホルダーとそれぞれの考え Case study—香港の「モンスタービルディング」と観光規制 Case study—築地市場マグロ競りと観光規制 コミュニティーでの紛争をどう解決するか？ 自分は世界での紛争の原因になりうるか？ Case study—スマートフォンと紛争鉱物 紛争をどう解決するか？		
7	M2	(perspective / responsibility) 紛争は人々と社会にどのような影響を与えるか？ 紛争は避けられないのか？ 平和構築のために自分ができることは何か？		
	Sa6	Learning Map 他		

(1)本時のねらい

コミュニティーで起こる身近な紛争の原因と解決方法を、多様な立場の人の視点で考える。
 自分も紛争のステークホルダー(利害にかかわる人)の一つになることを体験し、当事者意識を高める。

(2)本時の展開(21/35時間)

分	学習活動(児童の反応)	・指導上の留意点 ☆評価規準
5	1. 自分たちと紛争とのつながりについて簡単に振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ● 紛争が起こるレベル(個人・コミュニティー・国・世界) ● 原因と影響(意見の食い違い/土地/権力/資源) 2. 本時の Research Question を確認する。	・個人レベルやクラスレベルは別として、あまり自分と紛争は結びついていないことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 紛争はどう解決できるか？(自分は紛争の原因になるか?) </div>		
5	3. Case study—グループごとにY町の公園の紛争状況を確認する。	* Case カード
<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">Case</p> <p>Y町には、公園がある。周りにはマンションや図書館、学校、ショッピングエリア、レストラン街がある。この公園は主にマンションに住んでいる住人が利用している。最近この公園に香港内外から人が押し寄せるようになった。この場所が人気ドラマの撮影場所になっていて、ここで写真を撮りたい人たちがたくさん集まるようになったのである。</p> <p>住人のお年寄りと訪れる人がぶつかりそうになったり、子どもの遊ぶエリアがせまくなったりすることで、住民と訪れる人たちの間には、よく口論(紛争)が起こる。</p> </div>		
5	4. どんな紛争が起こっているのか？住民と訪れる人の視点を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ● 住民(落ち着いたきれいな公園だったのに、最近騒がしくなった。/子どもがスマホばかりを見ている人たちとぶつかりそうになった。/道路に車が並んでしまって危ない。) ● 訪れる人(せっかく来たのだから思いきり楽しみたい。/たくさん写真を撮りたい。/住民は来ようと思えばいつでも公園に来ることができる。) 	・住民 vs.訪れる人の2極化を強調する。
5	6. 住民と訪れる人以外にこの紛争にかかわる人たち(ステークホルダー)を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ● 近くのお店屋さん(お客さんが増えてうれしい。/もっと商品売りたい。) ● 学校の先生(スクールバスがなかなか駐車できなくて困る。/人が少なかった時の方が、安全だった。) 	* 地図 ・地図を見ながら、紛争構図が単純な2極化ではないことに気付かせる。 ・ホワイトボードに紛争構図を図示する。

<p>15</p> <p>10</p>	<p>● マンションのオーナー(住人から苦情を言われて困っている。)</p> <p>● ドラマ制作会社のスタッフ(これをきっかけにもっとドラマが有名になればいい。)</p> <p>● ツアー旅行会社のスタッフ(ロケ地めぐりツアーを企画したらおもしろいかも。)</p> <p>など</p> <p>7. どう解決するかを考える。</p> <p>● 対話・議論する(みんなで話し合えばいい)</p> <p>● 禁止する(もともと公園はマンションのものだから、マンションが決めればいい。／撮影禁止にすればいい。)</p> <p>実際にそれぞれのステークホルダーに分かれて議論する。</p> <p>● 仲裁が必要になる(だれか議長になった方がいい／だれが議長になる?)</p> <p>教師が議長になって議論してみる</p> <p>8. 実際に香港で起こった例: Quarry Bay Monster Building を示し、本時のまとめと振り返りをする。</p> <p>紛争をどう解決するか、どのような手段があるか振り返る。</p> <p>議論前に行ったワークシート(紛争と自分の関係度スケール)振り返り、今の考えを色ペンで書き込む。</p> <p>自分自身の考えに変化は見られたか意見を共有する。</p>	<p>・班それぞれに立場を割り振る。(6.で出てきた立場のうち、意見が出やすそうなものを選択)</p> <p>・まずは議長を置かずに自由に発言させる。</p> <p>・わざと教室内で「紛争」を起こすようにする。紛争解決の困難さを体験させる。</p> <p>・適宜、議論で「悪者」のようになるような意見をTTの教員から入れる。</p> <p>・議長(仲裁者)もいた方がいいだろうことに気付かせる。</p> <p>・紛争構図に含まれない第3者が議長になる。</p> <p>* 写真(ビルと映画 Transformer)</p> <p>・実例を挙げ、当事者意識を高める。</p> <p>・実例での紛争解決手段は「禁止」。</p> <p>・現在も問題は解決しきっていないことも伝える。</p> <p>・自分もコミュニティーの紛争の一人／原因になるかもしれないことに気付かせる。</p> <p>☆異なるステークホルダーには異なる視点があることをふまえて、解決方法を指摘できる。(発言)</p> <p>☆自分がコミュニティーでの紛争のステークホルダーの一人になり得ることを理解し、思考の変化を表現できる。(ワークシート・発言)</p>
---------------------	---	---

授業の視点

- (1) ケーススタディーを取り入れたことは、多様な人々の視点を考えさせる上で有効であったか?
- (2) 複数のステークホルダーの存在に触れて紛争を考えたことは、当事者意識を高めたか?